

まちづくりがはじまっています

鶴岡市では、2014年に鶴岡公園とその周辺地区を対象にした3回のワークショップを開催しました。このワークショップは歴史まちづくりに興味がある人は誰でも参加できるので「どういう歴史があるのかわからないから勉強したい」という人から、「自分が取り組んでいる活動に歴史的な資産を活用したい」という具体的なアイデアがある人まで176名の市民が参加しました。

3回にわけてまちを歩き、建物を見学し、机を囲んで意見交換を重ね、まちにどのような歴史的資産があり、それぞれにどのような歴史があり、どのような活用方法が考えられるのかについて検討してきました。

ワークショップを終えた後には、この成果を踏まえて「勉強会をしよう」、「イベントが出来ないか」と小さな歴史まちづくりが動き始めています。この地図で歴史まちづくりを初めて知った、という方も、興味を持たれましたら、これからどんどん参加してください。

歩いて考えてみよう

地図には、まちの中に点在する歴史的資産についての情報がまとめられています。何気なく通っていて気づかない場所にも沢山の歴史的な資産と人々の営みがあることがこのまちの魅力です。この地図を頼りにそこに行きその魅力を感じ、その使い方を考えてみてください。

地図には、目に見えない歴史を感じるスポットもまとめられています。「小路（こうじ）」とよばれる城下町時代からある路地、城下を守るために作られた十一の「木戸口」の跡などがあります。また、城下町の街路は南の母狩山、金峰山、北の鳥海山の山頂を目印とする「山当て」という方法で設計されたと言われています。地図には「山当て」で設計された街路が示してあり、その街路からは山頂をはっきり見通すことができます。こうしたスポットに行き、歴史に思いを馳せてみるのもよいでしょう。

歴史まちあるきで疲れたら、まちなかのお店で休憩してください。地図にオススメの喫茶店やレストランをまとめておきました。

歴史×X

歴史をどう強みにするか？6つの活用方針

まちの中に点在する歴史的な資産を、これからの私たちの暮らし・営みを豊かにするために、どのように使っていけるでしょうか？

様々な種類の営みとかけあわせて歴史的な資産を考える6つのX（エックス）を考えました。

1 歴史×食文化

鶴岡には「ユネスコ創造都市ネットワーク」に認定されるほどの、世界的に豊かな食文化が息づいています。郷土料理を出す歴史的な建物を使ったレストランなど、食文化と歴史的な資産を掛け合わせることで豊かな営みをつくりだせるのではないのでしょうか。

2 歴史×商店街

鶴岡の商店街は、城下町時代の町人地から発展したもので、その町割自体が歴史的な空間。一つ一つのお店を丁寧にリノベーションし、歴史的な雰囲気を強みとした魅力的な商業空間を発展させていけるのではないのでしょうか。

3 歴史×観光

鶴岡はまち全体が藤沢周平の時代小説の舞台「海坂藩」のモデルにもなりました。こうした歴史的な空間を楽しみに訪れる観光客も多く、まちの中の建物には映画のロケ地となったものもたくさんあります。観光産業の中での歴史的資産の活用がますます求められるのではないのでしょうか。

4 歴史×健康・生きがい

鶴岡の中心部は「歩いて暮らせるまちづくり」を目指しており、病院や福祉施設が点在する子供から高齢者までが安心して暮らせるまちが作られてきました。歴史的なスポットを巡る散歩コースを歩く、歴史的な建物のボランティアのガイドになってまちを訪れる人を案内する、こうしたことが健康や生きがいづくりに繋がるのではないのでしょうか。

5 歴史×教育

歴史的な建物の一つである「致道館」は、かつては藩校として庄内藩の教育の中心を担っていました。その教育の精神は現在まで引き継がれています。こうした精神を生かし、子供から大人までが学ぶ場所として歴史的な資産を活用することは出来るのではないのでしょうか。

6 歴史×暮らし

何気ない日々の暮らしの中で、歴史的な空間を使い、維持続けることも重要な視点です。自分の家の「板塀」の手入れを欠かさず、地域の集まりや行事で歴史的な建物を使う、みなで歴史的な資産の掃除をする、こういったことを暮らしの新しい習慣にしていけないのでしょうか。

企画・編集・製作：首都大学東京饗庭研究室 / NPO法人 鶴岡城下町トラスト
デザイン：IDEHA Creation
発行：鶴岡市都市計画課
発行日：2015年3月

歴まち はじまりの マップ

歩いて考える歴史のまち・鶴岡



歴史的な資産を活かそう！

鶴岡市の中心部には、17世紀につくられた城下町のなごりが多く残っています。これまでの歴史の中で、戦災や震災を受けて大規模な都市改造が行われることも無かったため、当時の町割りがそのまま町の骨格として引き継がれてきているのです。

引き継がれているのは骨格だけではありません。その骨格の上に、江戸、明治、大正、昭和など、様々な時代の歴史的建造物が積み重なって現在のまちの姿を作り出しており、鶴岡の市民や企業はそういった歴史的な資産を使いながら、暮らしを営んでいます。

こうした歴史的な資産とそこで行われる営みを大事にし、次の時代につないでいくことが重要なのは言うまでもありません。

では、どのようにそれを意識し、つないでいくことが出来るのでしょうか？それは、鶴岡に暮らし、訪れる人が協力をして歴史的な資産を保存、活用する「歴史まちづくり」なしには実現することができません。鶴岡市ではこういった歴史まちづくりを応援するために「歴史的風致維持向上計画（歴まち計画）」をつくり、2014年より様々な事業に取り組んできています。れきまち計画は、市内三カ所を重点的に取り組む地区としていますが、この地図はそのうちの「鶴岡公園とその周辺地区」について、2014年から始まった歴史まちづくりの取り組みの中間成果をまとめたものです。



お問い合わせ：鶴岡市都市計画課 ☎0235-25-2111（内線464）
✉ tokei@city.tsuruoka.yamagata.jp

歩いて考える歴史のまち・鶴岡

- 旧三の丸の範囲 (外堀堰)
- 山当りの道路軸
- 小路・木戸口跡
- 旧街道筋
- 歴まちスポット
- レストラン
- 食堂
- 喫茶
- 和菓子
- 雑貨

地区を6つの界限に分けて考えます。

家中新町界限	上着町界限
馬場町(北)界限	七日町・一日市界限
馬場町(南)界限	銀座商店街界限 (下着町・五日町・三日町・十日町)

羽前絹練

100年余りの伝統と歴史のある絹精練の会社。洋装分野で日本一の加工高と生産量を上げている。

旧鶴岡警察署庁舎

庄内随一の棟梁、高橋兼吉の手による鶴岡を代表する「擬洋風建築」の一つ。

大智寺

庄内藩主酒井家の菩提寺であった。学校給食発祥の地。

致道博物館

元は庄内藩の御用屋敷として使用されていたものを現在は博物館として公開。

大宝館

鶴岡市指定有形文化財。郷土人物資料展示施設。大正期からの外観は鶴岡の人から愛されている。

旧致道館

国指定史跡。東北地方唯一の現存する藩校建築であり、歴史的、文化的にも価値が高いといわれている。

鶴岡カトリック教会 天主堂

旧庄内藩家老屋敷跡に建てられたロマネスク様式の建築。ステンドグラスを模した国内唯一の「窓絵」がある。

旧エビス屋薬局

アルデコのデザインやステンドグラス、和館+洋館という住まいの形など昭和初期に流行した要素をもっている。

三井家蔵座敷

母屋を火災から守るために周囲に防火帯として建てられた土蔵の棟。

鶴岡天満宮

「鶴岡天神祭(化けもの祭)」では社殿を背景に境内で奉納される天狗舞、獅子舞はなかなかの趣き。

鶴岡ホテル

平成25年に旅館は閉館したが正面玄関にある大きな時計は未だにねじをまいて動かしているという。

三浦屋

東京で技術を学んだ4人の棟梁が各部屋・階を担当し、各々のデザインで建設された。

新茶屋

客室からは金峰山、庭園を望むことが出来る。客用トイレには「人造石研出し」が随所に施され一見の価値あり。

鯉川酒造

庄内大祭の際には恒例の撮影スポットになるほどの歴史を感じる外観。

住居として使っているため建物はそのままにして周辺を整えるとよい。

鯉川ストーリーを作ってはどうか。

少しずつ物語りのある場所を繋いで歩ける環境を整えるとよい。

市民一人一人が情報を発信する。

観光地の活性化の中心とする。

建物そのものが史実としてある庄内藩の藩校である。

「学ぶ精神」を伝えていく。

七日町観音堂

「七日町観音堂だるま市」(観音様のお年夜)の賑わいは年末の風物詩。

さいひろ

土蔵造りを感じられる外観が特徴的なカメラ屋さん。

旅館、食堂、お風呂を期間限定でも再開出来ないか。これだけの施設に泊まるのは貴重なのではないか。

お茶、お花、食、観光など鶴岡の文化をあらゆる施設になりうるのではないか。

イラストを描いたばんぼりを道中に配置した「灯デザインプロジェクト」ができないか。

多くの小路やお寺のしだれ桜、旧街道の文化などと一緒に紹介できる。

市民による保存の会をつくるとよい。

★青色の吹き出しについて
「歴まちワークショップ」に参加した市民のみなさんの意見やアイデアです。

